

地域保健医療協議会 町田市医師会林委員からの質問に対する各市の回答

【質問】

(整理番号6)「母子保健の充実」への質問(各市共通)

子育て世代包括支援センターは就学までの切れ目ない育児・成育支援を目的にしていると思います。

- ①就学後思春期(中学卒業までなど)の切れ目ない育児・成育支援を行う予定はあるか?
- ②妊娠期のみでなく、出生から就学までの育児・成育支援は、センター設置前と比較しどの程度改善しているか?

【回答】

	①	②
八王子市	<p>八王子市においては、母子保健と児童福祉が一体となって子育て世代包括支援センターとして、妊産婦から18歳未満までの子ども及びその保護者を支援しています。</p> <p>また、就学後のお子さんについては子ども家庭支援センターが切れ目ない支援として、児童虐待対応及び専門的な相談機関との連携が必要であれば適切につなぎ、一緒に情報共有しながら対応しています。</p>	<p>3保健福祉センターでは、「八王子版ネウボラ」として、妊娠期から就学までの切れ目のない支援を行っています。</p> <p>八王子市では子ども家庭支援センターと保健福祉センターを子育て世代包括支援センターと位置づけ、それぞれの事業・役割を実施するとともに、特定妊婦進行管理会議の開催等を通じて、連携を深めています。</p>
町田市	<p>母子保健所管課が主に妊娠期から就学前まで、児童福祉所管課が0歳から18歳までの子どもと保護者を対象に、育児・成育の相談を受け、必要に応じ、情報を共有しながら支援を行っています。</p> <p>これまでに、医療的ケア児とその家族の相談に応じる体制構築や公立保育園への入園を開始する取り組みなどを行ってきました。今後も、引き続き医療、教育、保健、福祉分野の連携を強化し、切れ目ない支援を実施していきます。</p>	<p>町田市の子育て世代包括支援センターでは、母子保健部門の保健所関連施設及び子育て支援部門の地域子育て相談センター、子ども家庭支援センターが相互に情報共有して連携することで、その機能を果たし、機関すべてが役割を担うことで、地域の身近な窓口で、気軽に相談できる体制としています。</p> <p>連携強化のため、従来実施していた地域ごとのあかちゃん訪問事業の会議を充実させて、情報の共有の他、今後の支援に向けた支援計画をたてることで、各機関の強みを生かしながら支援を行っています。</p> <p>また、子育て世代包括支援センターの関連する部署で連携会議を実施し、合同で事業一覧を作成、子育てサイトを通じた窓口の周知を行っています。</p>

<p>日野市</p>	<p>日野市では、子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点が場所的にも一体的に運営できるよう「すべての子どもの健やかな成長を切れ目なく支援する、子ども・家庭・地域の子育て機能の総合支援拠点」を目的とした（仮称）子ども包括支援センターを設置する予定です。また、当該センターにて中学校卒業後の支援も行います。本支援については、令和2年度に検討委員会を、令和3年度に各種部会を立ち上げ、現在も具体的な支援策を検討しております。</p> <p>※設置に先駆け令和3年4月より①子ども家庭支援センターと健康課母子保健部門を組織的に統合、②発達教育支援課のスクールソーシャルワーカーが教育部と子ども部を併任</p>	<p>令和3年4月より子ども家庭支援センターと健康課母子保健部門を組織的に統合したことで以下の点について、より充実されました。</p> <p>①各種母子保健事業での虐待予防の視点を入れたスクリーニングについて、今までのスクリーニングよりも踏み込んで実施（より深掘りした聞き取り）</p> <p>②母子保健係が実施している事例検討会にケースワーカーが参加 →さまざまな視点で関わることで、よりきめ細やかな支援が可能となり、虐待の未然防止、早期発見につながることとなりました。</p>
<p>多摩市</p>	<p>多摩市では、子育て世代包括支援センター事業開始前から児童館で高校生までを対象とした支援体制を構築しています。</p> <p>ポピュレーションアプローチとして、身近な地域でいつでも立ち寄り、気軽に相談できる体制となっており、支援が必要な方には、関係機関と連携し繋げています。</p> <p>今後も、思春期までの切れ目ない支援を更に充実できるように検討していきたいと考えています。</p>	<p>多摩市では令和2年10月より子育て世代包括支援センターを設置しました。従来の支援に加え、以下の取組を実施し支援体制の充実を図りました。</p> <p>主な取組は、妊娠期から子育て等に関する情報提供としてLINEを活用し配信。妊娠、出産、子育てに関する正しい情報提供と、市の関連事業等の案内を行い令和3年10月末時点での登録件数が1742件、登録者のアンケートから85.8%の方に登録して良かったと回答をいただいています。</p> <p>妊娠期においては、ゆりかごTAMA妊婦面接の面接率が90.8%。全妊婦への妊娠出産支援プランを作成。身近な地域子育て支援拠点と地区担当保健師を紹介し、結果、妊娠期から拠点に足を運ぶ方も増え、早期の相談、支援に繋がる取組となっています。</p> <p>子育て期においては、オリジナルで作成した年齢別にその時期に行うと良い遊びや身体の使い方等を掲載したリーフレットを作成、配布。地域子育て支援拠点へ保健師、公認心理師、作業療法士等の専門職による出張講座、出張相談を実施し、ポピュレーションアプローチの充実を図りました。</p>

		引き続き、関係機関との連携強化を図り、すべての妊産婦、乳幼児とその保護者の方々が安心して健やかに育てことができるよう、包括的な切れ目のない支援体制の構築を進めていきたいと考えています。
稲城市	子育て世代包括支援センターの機能は、おやこ包括支援センターと子ども家庭支援センターとが連携して担っております。主な支援対象としては、おやこ包括支援センターが妊娠期から就学前までの児童、子ども家庭支援センターは出生後から18歳未満の児童であることから、就学後についても子ども家庭支援センターが中心となり、関係機関と連携し切れ目のない育児・成育支援を実施しております。	妊娠期及び育児・成育の支援については、ポピュレーションアプローチでの支援を図っておりますが、特に専門的な支援を必要とする対象者については、センター設置以降に開始した「子ども家庭支援センター（子育て支援拠点部署及び虐待相談対応部署）」との連携会議により、事業やケース等について迅速に情報共有でき、両部署が連携してより適切な支援を図ることができるようになったと考えます。